

第5講 知的独立宣言—R.W.エマソンの教育思想：超越主義

1 文化的融合主義から文化的多元主義まで

(1) クレヴクール『あるアメリカ農夫の手紙—第三の手紙』

資料参照 「第三の手紙」より

1 新しい世界で、さまざまな出身の移民たちが、「混血」によって「新しい人種」に生まれ変わる。「諸個人が一つに溶け合い、一つの新しい人種」となる。人種のるつぼ理論。

2 古い偏見や生活様式を捨てて、新しい思想、制度に生きるという「未来志向性」。

3 アメリカが将来「偉大な変化」をもたらすであろうという予言。

4 文明は、「遠い昔に東方で」始まり、「西へ進む」という思想。西漸。

アメリカ人は「西方の巡礼者」。後の D.H.ソロー、W.ホイットマン『インドへの道』

5 労働と勤勉が世俗的な成功で報われるという信念。アメリカンドリーム。成功の夢。

6 結論的に、アメリカ人は「新しい人間」である。(再生、復活、変身など)

アメリカはヨーロッパ(文明の持つ)の圧政、悪徳の呪いから逃れた、新しい可能性。

(2) R.W.エマソン(Ralph Waldo Emerson 1803-1882) 1845年のエマソンの日記

(3) イギリス系ユダヤ人作家、I.ザングウィル(Israel Zangwill,1864-1926)

I.ザングウィル(Israel Zangwill,1864-1926)による演劇『るつぼ(The Melting Pot)』(1908)

(4) 「人類のオーケストラ」文化多元主義の立場 H.M.カレン(Horace Meyer Kallen, 1882-1974)

2 R.W.エマソン(Ralph Waldo Emerson 1803-1882)の教育思想

(1) 生涯

(2) 思想 知的独立宣言「アメリカの学者」(1837年)

1) 自然と人間の魂は同一の根をもつ。自然に対する探究と人間の魂に対する探究は同じ。

2) 人間は、「神聖な魂(大霊 Over-Soul と呼ばれる)」によって命を吹き込まれている。人間を超越したものの存在を認める。それによって命を与えられた個人の尊厳と、個人の国家に対する優位を認めること。個人に内在する神。

3) 思考と行為が密接な関係にあり、思考は行為の一部である。

4) 人間の生活が思想の基盤であること。平凡な日常人の生活を重視、尊重すべきこと。

自然は精神の象徴「自然は精神の象徴である」

霊的存在としての子どもの尊重『自然論』：個人の尊重・個性の尊重『教育論』

超越主義＝人間精神の中に、神ないし霊を看取する能力が必ず存在しているという信仰

3 H.D.ソロー(Henry David Thoreau, 1817-1862)の『森の生活』

自然とともに生きた忠実な生活記録

「私が森にいったのは、思慮深く生き、人生の本質的な事実のみに直面し、人生が教えてくれるはずのものを自分が学び取れるかどうかを確かめたかったからである。・・・私は刻一刻を大切に生き、それを記録しておこうと心がけた。過去と未来という、二つの永遠が出会うところ、まさにこの瞬間に立とう、その線上に爪先で立とうとしたのである。」